

**紛争関連の性的暴力生存者のためのグローバル基金（GSF）主催
サイドイベントにおける
宇都外務副大臣ビデオ・メッセージ**

御出席の皆様、日本国外務副大臣の宇都隆史です。本日は、「紛争関連の性的暴力生存者のためのグローバル基金」が主催するイベントにおいて、共催国として、日本政府を代表しメッセージを寄せることができ光栄です。

紛争下における性的暴力は、今日の国際社会においても撲滅されていない重大な犯罪であります。紛争下で性的暴力の被害にあった犠牲者や生存者の方々は、暴力によって名誉と尊厳が深く傷つけられます。それは、生存者の方々の経済的な自立も妨げてきました。日本は、紛争下の性的暴力によって傷ついた生存者の方々の自立を支援するというこの基金の趣旨に強く賛同し、その活動を設立当初より支持・支援してきました。まずは、基金の設立の立役者であるムクウェゲ医師とムラド女史に敬意を表したいと思います。

そうした観点から、日本は基金に対し、これまでに計400万ユーロを拠出し、理事国としてその運営に積極的に関与しています。また、紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表事務所が有する紛争下の性的暴力関連のプロジェクトにも資金を拠出し、加害者を処罰する仕組みづくりに貢献しています。心身共に大きな傷を負い、今まさに苦しんでいる方々に寄り添い、支援することが何より大事です。紛争下での性的暴力をなくすため、今後も関係する皆さまと連携しつつ、様々な支援を続けていく所存です。

2020年の年初以降の新型コロナの感染拡大により、弱い立場にある女性や女児が、大きな影響を受けています。国連の報告によると、紛争下の性的暴力の生存者は、コロナ禍で一層深刻な状況となっているとされています。紛争下の性的暴力により傷ついた方々が、自立の手段を得て、自信を取り戻し、経済的・社会的に活躍することができれば、私たちの社会に新しい視点がもたらされ、新型コロナからの「より良い回復」のためのきっかけを生み出すことができると信じています。

そうした意味でも、コロナ禍によって支援の手を緩めることがあってはなりませんし、紛争下の性的暴力を始めとするジェンダーに基づく暴力が容認されてはなりません。こうした認識が今、国際社会で共有されていることは大変心強いことです。引き続き、国際社会と連携し、暴力の撲滅と生存者の救済・支援に向けて取り組んでいきたいと思っております。

本日のイベントでは、基金のこれまでの活動が報告されると聞いております。このイベントを通じて、多くの人々が、紛争下の性的暴力の生存者たちの自立に向けた支援の重要性を認識するきっかけとなり、実り多きものとなることを祈念しております。ご静聴ありがとうございました。

(了)